



30年後の地域社会を思い描き、コミュニティと工学のあり方を探るワークショップ。今回のテーマは「家族の形」です。

住宅や車を設計する上で、それを使う「世帯（家族）」を想定する必要があります。多数派と考えられてきた「夫婦と子ども」は、既に全世帯の2割台に落ち込み、「単身」の世帯が3割を超える時代となりました。2040年には「単身」世帯が4割に近づくという推計も出ています。

「単身」世帯が増加することで「血縁でない人達と共に暮らす方法やコミュニティ」がより重要になる可能性があります。

今回は、ルームシェアやシェアハウスを研究されている久保田裕之氏（日本大学文理学部社会学科教授／家族社会学）をお招きし、30年後の家族の形について考えます。

日時 2018年 **11月21日**（水）
18:30—20:00

場所 名古屋工業大学 ラーニングcommons
（講堂 2階）



講師：久保田裕之氏
（日本大学文理学部社会
学科教授／家族社会学）

1976年群馬県生。専門は家族社会学、福祉社会論、政治哲学。とりわけ現在日本でも注目を集めているシェアハウスに関して、実践と調査の両面からアプローチすることで、家族を超えるケア・親密性・共同性に関する理論研究を行う。著書に『他人と暮らす若者たち』（2009年、集英社）、『家族を超える社会学』（共著：2009年、新曜社）など。博士（人間科学）。

■お申込み方法

参加者氏名、所属、連絡先を記載の上、メールにてお申し込みください（**11/20締切**）。

メール community-c@lab-ml.web.nitech.ac.jp

※資料準備の都合上、事前申し込みにご協力ください。

※いただいた個人情報は、コミュニティ創成教育研究センターの情報提供に使わせていただきます。